

不妊当事者からのメッセージ

Message from sterile persons concerned

松本亜樹子・高柳順子

Akiko Matsumoto・Junko Takayanagi

NPO 法人 Fine

(nonprofit organization FINE (Fertility Information Network))

Key words:不妊、不妊当事者、不妊治療

: Sterility、Sterile people、Fertility treatment

目的

不妊当事者の自助団体である NPO 法人 Fine (ファイン) では、不妊治療や不妊当事者の環境向上のために、当事者のニーズに応えながら、広く社会へ向けて提言や情報発信を行っている。主な活動としてはウェブサイトの運営・管理、講演会・勉強会・イベント等の開催、公的機関・医療機関等への働きかけ、カウンセリング事業、会報誌・メールマガジンの発行、SNS の運営などである。

今回は、日本における不妊当事者および不妊治療の現状と課題を明確にしたうえで、不妊治療における当事者の精神的負担の軽減を図るため、そのもっとも大きな要因となっているであろう「医療従事者とのコミュニケーション」をテーマに意識調査を実施、この結果を分析することにより、医療従事者の認識を新たにし、不妊当事者に対する対応やコミュニケーションの在り方を再考する契機になることを目的とした。また不妊当事者自身には、この調査の総体的な結果を伝えることにより、ミスコミュニケーションの現状の周知と、自らの意識改革につなげてもらうことを目的とした。

方法

不妊治療の現状と課題の抽出においては厚生労働省発表のデータや日本産科婦人科学会の調査結果を参考にするとともに、Fine の会員に対する意識調査を実施した。またコミュニケーションアンケートに関しては、会員だけではなく広く一般不妊当事者へ協力を促して実施した。

結果

医療スタッフとのコミュニケーションアンケートは、調査期間 2009 年 3 月 1 日～同年 6 月 10 日まで。有効回答数は 412 人であった。設問は主に「この説明を誰からしてもらいたいか?」という、コミュニケーションの内容によって望む相手を訪ねるものであった。結果はすべての説明を医師にだけ偏るのではなく、内容により希望する相手が違ってきており、患者自身が、内容によってそれにふさわしいと思える相手を使い分けている(望み分けている)ということがわかった。

考察

日本における不妊症に悩むカップルは 10 組に 1 組といわれて久しく、日本産科婦人科学会の 2006 年の出生数調査によると、体外受精によって国内で生まれた子どもは 2006 年までの累積で 17 万 4456 人となった 1)。さらに 2006 年単独では年間出生数 109 万 2674 人 2) のうち、体外受精によって生まれた

子どもの数は 1 万 9587 人と全体の 1.8% を占め、実に年間出生児の 56 人に 1 人以上が体外受精により生まれている。にもかかわらず、2009 年という現代社会においてもまだまだ不妊は minority である。「不妊」に対する正しい情報が不足していることが、その大きな要因と考えられる。不妊の人は「異常である」「かわいそうである」「劣っている」などである。また治療を先延ばしにする例も後を絶たない。不妊治療は痛い、高額だ、病院に行ったらすぐに「顕微授精」を受けなければならない、など。だが実際には病院に行っても検査だけで妊娠する例もあり、皆が皆必ずしも体外受精の必要はない。しかしながら上記のような間違った情報だけが先走るため、当事者や周囲の人にとって、不妊治療は非常に特別なものである、という印象をぬぐい去れない。そこが当事者の不安感につながっていると推察する。

一方コミュニケーションアンケートでは、それぞれの立場の医療スタッフに対する期待度の差が明確になった。治療方針以外の説明なら「医師でなくても他のスタッフでもかまわない」と答えた人が多く、治療のスケジュールや薬の種類や説明などは、医師よりもむしろ看護師、胚培養士、受付やカウンセラーなど、他のセクションのスタッフからの説明を求める声が多かった。これは少なからず「お医者様がすべて」であった従来の日本の医療システムとは異なる結果であり、患者の意識は少しずつではあるが着実に変化してきていること、また提唱されて久しい「患者中心のチーム医療」が浸透しつつある兆しであると感じられた。

今後の方針と展望

NPO 法人 Fine は継続して不妊当事者の意識調査を行ない、その結果を広く社会に発信することによって、不妊当事者の環境を整えることを目的に、今後も活動を続ける所存である。可能な限り幅広く、活動に賛同してくれるサポーターが一人でも増えてくれることを願っている。

引用文献

- 1) 体外受精(顕微授精を含む)での累積出生児数: 2006 年(平成 18 年)の報告では 174,456 人。『日産婦誌』60 巻第 6 号・「平成 19 年度倫理委員会・登録・調査小委員会報告」より
- 2) 2006 年(平成 18 年)の出生数: 1,092,674 人。「人口動態統計」(厚生労働省)より